

きました。見あげると、雲をおしのけて、十五夜の月が地上を照らしはじめていました。

「十五夜さん、ありがとう。」

伊策は、夢の中でこう言ったかと思うと、ふたたび深い眠りにはいつていきましました。

こんなことを経験しながら、伊策の、昼間<sup>ひるま</sup>働き、夜は夜学<sup>やがく</sup>に通う生活は続けられました。伊策は、一生を通じて小学校を出ただけでしたが、一人でこつこつと勉強を続けていったのです。

### 珠算の道、教育の道

伊策<sup>いさく</sup>が、初めてそろばんを手にしたのは、小学校三年生のころでした。